



浜田水産高校「同窓会会報」



〒697-0051 浜田市瀬戸ヶ島町25-3

TEL 0855-22-3098 Fax 0855-23-4811

E-mail hamadasuisan-hs@edu.pref.shimane.jpH P <http://hamasui.ed.jp>

浜水会会員の皆様におかれましては、各方面で日々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

常日頃、母校および浜水会の発展のため、物心両面のご配慮をいただき、厚く御礼申し上げます。



早いもので、瞬く間に一年が過ぎ、満開であった桜も散り、春の日差しが時折、眩しさを感じるこの頃です。

令和7年度の入学式では、新たに36名の新入生を迎えました。地元の小中学校をはじめ、県立高校も入学者が定員に満たない厳しい状況が続いていますが、産官学連携や教育内容の充実、地元経済界の皆様と共に学校の魅力化を図り、水産業あるいは地域産業の担い手の育成に地域を挙げて取り組み、なくてはならない水産高校を目指していかなくてはと感じております。学校長をはじめ教職員の皆様と共に頑張っていきたいと思っております。

国の方針では来年度から私立高校の完全無償化となる報道がなされ、ますます厳しい学校運営がはじまるのではないかと危惧されます。県外市外から浜田水産高校に入学される生徒さんは、なぜ本校を志望し入学されたのか、また小規模校のメリットデメリットは何であるかを深く理解していかなくてはならない時期がきています。

県立高校、私立高校ともに、様々な制約があるとは思いますが、県立高校入学を一人でも多く希望していただけるよう取り組まなくてはなりません。

さて、令和6年度の体育祭は、初めての試みとして地元の県立体育館の屋内で開催されました。熱中症をはじめ様々な対策が練られており、50数年前の私たちが経験した体育祭では考えられない時代の流れを感じました。

また伝統行事である水高祭は、実習製品販売や水高鮮魚市場など市民の皆様浸透した一大イベントであり、PTAの皆様にお力添えいただき、今もなお

大盛況となっています。

このように今後も地域から期待され、全国に誇れる学校となるよう、同窓会会長として与えられた役割を認識し、尽力して参りたいと思っております。

浜田水産高校も3年後には創立80周年の節目の年を迎えます。大きな夢を見ることはもちろん大切なことですが、生徒の皆さんは、一步一步確実に前進し、目標と目的を常に持ち続け、勉学と心身の鍛錬に励みながら様々な課題に対して自ら考え行動し、個性と多様性を尊重する豊かな心を持った人間へと自分自身を高めていただきたいと思います。また豊かな人間性を持ち、水産、海洋や製造、流通のスペシャリストを育成する浜田水産高校を、微力ながら応援していきたいと考えております。

私自身も本年で70歳を迎える年齢となりました。少しでも若い世代の方に同窓会役員をお願いし、昨年の春に地元で活躍されておられる女性役員3名を選任させていただきました。今後のご活躍を期待しております。

最後になりますが、これまで浜田水産高校発展のためにご尽力いただいた諸先輩方に敬意を表し、今後も会員の皆様と手を取り合って、同窓会活動の運営をおこなって参ります。引き続き浜水会活動にご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

令和7年4月吉日

浜田水産高等学校同窓会
会長 米谷 浩

◆令和6年度 浜水会事業◆

広島支部総会・懇親会

日 時：令和6年7月21日（日）10:30～14:30

会 場：広島ガーデンパレス

出 席：22名

今回は広島駅新幹線口のすぐ北側、広島ガーデンパレスを会場として開催されました。本部事務局か

らは米谷会長と白井校長先生の他、海洋技術科 65 期の佐々木一真先生と 70 期の長恒文彦先生に出席して頂きました。若い両名にとって支部総会がどのようなものか想像できなかったようですが、同窓生という絆で結ばれた方々が、広島で支部を組織して活動しておられることに感銘を受けたようでした。

来年も是非参加したいと希望しているので、次回は広島在住の同級生に声をかけて、一緒に参加してもらいたいと思います。



【広島支部総会集合写真】

浜水会役員会

日 時：令和6年7月27日（土）10:00～12:00

会 場：浜田水産高校会議室

会長・顧問をはじめ、理事・監査及び事務局の計 19 名の参加を得て、令和6年度役員会が開催されました。議題は以下のとおりです。

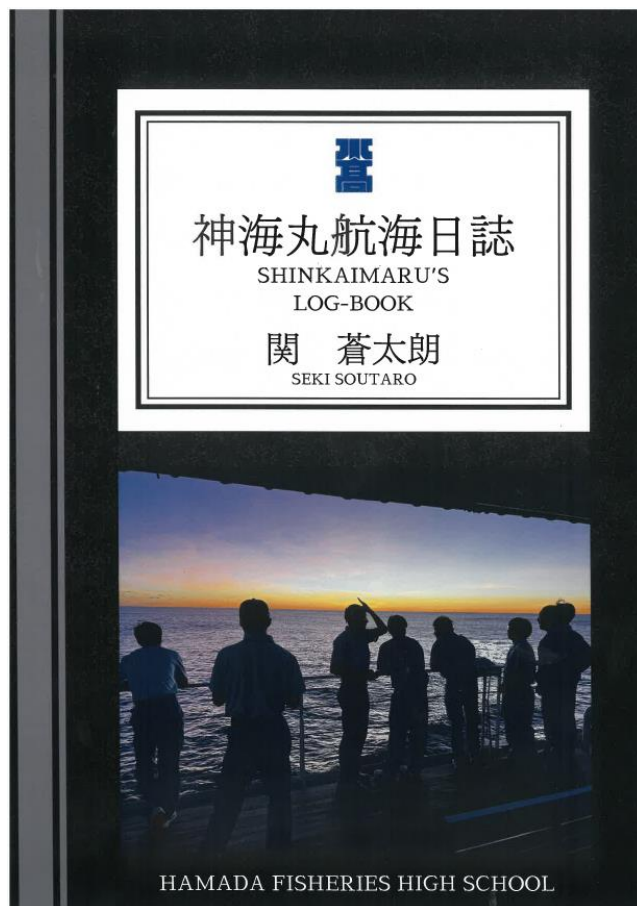
1. 令和5年度事業報告
2. 令和5年度会計・監査報告
3. 令和6年度事業計画(案)
4. 令和6年度予算(案)
5. 令和6年度浜水会役員(案)
6. その他

議題6. その他において、令和6年度海洋技術科3年生の関 蒼太郎君が乗船実習の様子を書いた「神海丸航海日誌」の追加発行経費を、同窓会会計から支出する案が提出され可決されました。

「神海丸航海日誌」は中国新聞に17回にわたって掲載されたものですが、その途中から読者より問い合わせや、冊子化への要望が寄せられるなど、小さからぬ反響となっていました。そこで学校は関君による巻頭言、あとがき、及び番外編を加えた冊子として

発行し、水産教育への理解を高めるために県内外各所へ配布されたところです。

現在「神海丸航海日誌」2回目の追加発行が行われて在庫も少しある状況です。自分も欲しいという方は事務局まで連絡を下さい。また、浜田水産高校のHPにも掲載されているので閲覧はどなたでも可能です。ぜひ読んで頂きたいと思います。



【神海丸航海日誌】

関西浜水会総会・懇親会

日 時：令和6年10月6日（日）11:00～16:00

会 場：ニューオオサカホテル

出 席：24名

令和6年度の関西浜水会総会へは、事務局より米谷会長、白井校長先生、佐々木一真先生の3名が出席しました。浜田にいとインバウンドや間近に控えた万博で賑わう関西地方は想像するだけであまりピンときませんが、たまには大阪へ行くのもいいものだと感じたのではないのでしょうか。また、関西浜水会の皆さんにお目にかかり、同じ時間を共有するのも大切な出来事であったのではないのでしょうか。

本部事務局では今後若い先生にいろんな所へ出て

行ってもらおうと考えています。これは少しずつ若返りを図ろうという動きの一つです。関西浜水会でも会長が交代されたようですが、同様に若返りを図っておられるのでしょうか。



【関西浜水会総会集合写真】

浜水会懇親会

日時：令和7年2月22日（土）18:00～20:00

会場：浜田ニューキャッスルホテル

出席：32名

以前行っていた「浜水を語る会」の後継事業として「令和6年度浜水会懇親会」を開きました。参加者された会員の最高齢は3期生（90歳）で、一番若い方は72期生（21歳）でした。かなり年齢層の幅は広がりましたが、とても盛り上がり和やかな会となりました。7年度も開催する予定にしています。皆さんぜひご参加下さい。



【浜水会懇親会校歌斉唱】

浜水会入会式

令和7年2月28日（金）75期生の浜水会入会式が

挙行され、海洋技術科29名、食品流通科17名合計46名が新たに会員となりました。米谷会長からは入会への歓迎と社会へ乗り出すことへの激励の言葉があり、入会生からは海洋技術科3年の中村太一さんが入会生を代表して力強く入会宣誓をしてくれました。卒業生は今後『浜田水産高校の卒業生』というブランドと共に歩んでいきます。その途上で皆さんと出会うことがあるかも知れませんが、その時は同じブランドを有する者として暖かく見守って下さい。

卒業生の進路先一覧を載せておきます。皆さんのそばに75期生はいないでしょうか。

	事業所・学校名	地域	業種・学科等
海洋技術科	就職	旭タンカー(株)	東京 内航海運
		イワタニ島根(株)	浜田 販売
		オーライン(株)	広島 内航海運
		岡本海運(株)	広島 内航海運
		海洋技術開発(株)	東京 海洋資源調査
		(株)ケーエスジェー	東京 漁業調査
		(有)三萬吉	岡山 内航海運
		伸司電巧(株)	広島 電気工事
		(株)広島 SHIPPING	広島 内航海運
		深田サルベージ建設(株)	大阪 海洋土木
		(有)福宝水産	浜田 底引き網漁船
		(株)ホテルニューアワジ	兵庫 ホテル調理師
		陸上自衛隊	公務員(自衛官)
	進学	専攻科	浜田 漁業科
		専攻科	浜田 機関科
		広島酔心調理製菓専門学校	広島 調理師科
		福山大学 生命工学部	広島 生命工学部
		島根県立西部高等技術校	益田 機械加工・溶接科
食品流通科	就職	(株)大磯	浜田 食品製造
		(株)キヌヤ	浜田 販売
		(株)ケイ・エフ・ジー	浜田 飲料製造
		(株)Kグランドエキスパート	大阪 空港管理
		生活協同組合しまね	浜田 販売
		日本光研島根(株)	江津 製造
		日本通運(株)福山支店	広島 運輸
		日本郵便(株)中国支社	浜田 郵便局
		社会福祉法人 浜田福祉会	浜田 介護
		(株)令和シーフーズ	浜田 食品製造
	進学	岡山理科大学専門学校	岡山 アクアリウム
		広島コンピュータ専門学校	広島 情報管理
		広島情報ビジネス専門学校	広島 総合ビジネス
		広島美容専門学校	広島 トータルビューティ
専攻科	就職	島根県立大学	浜田 地域政策学部
		MUアーライン(株)	山口 内航海運
		大阪府警	大阪 警察警備艇
		海上保安庁	保安学校
		神奈川県警	神奈川 警察警備艇
		関西港湾サービス(株)	大阪 タグボート
		山友汽船(株)	兵庫 内航海運
		島根県海事職員	島根 試験船
		日本製紙木材(株)	東京 海務

◆学校の様子◆

今回は皆さんがご存じの学校行事の他に、“学校はこんなこともやっている”といった事業に焦点を当てて紹介します。「今頃の高等学校ではこんなことをやっているのか。」と時代の流れを感じるものが多いのではないのでしょうか。

入学式（4月9日）

海洋技術科26名、食品流通科23名の計49名が入学許可されました。1学年の定員が80名なので大幅に割れています。かつては1学年4クラス160名定員がほぼ埋まっていたので、専攻科も合わせると500人近い生徒がいたわけです。少し寂しいですがこれが現在の姿です。

情報モラル教室（4月15日）

SNS等の利用に関連した危険やトラブルを未然に防ぐ知識や心構えを学ぶため、浜田署の警察官を講師として招いてメッセージアプリでのトラブル事例、個人情報アップすることの危険性、近年問題となっている闇バイト募集などについて講義していただきました。スマートフォンを使うのは簡単ですが、誤って使ってしまうと重大な結果をもたらすものだという認識を持つことができました。



海洋教室（8月4日）

「長浜まちづくりセンター」より依頼を受けて海洋教室が開催されました。実習棟で水産高校の教員から浜田の水産業について学ぶとともに、マイクロプラスチックが及ぼす海洋環境問題についても講義を受けました。また、最新の操船・レーダーシミュレーターによる臨場感あふれる船舶の疑似操船体験も行

いました。その後は細索（細いロープ）を編み込んでコースター製作や、付近の岩場で水中生物の観察を行い海に親しんでもらいました。

他の日には「浜田まちづくりセンター」と共同で、実習船「あわしま」を使って中学生に釣り体験もしてもらいました。



【操船・レーダーシミュレーター】

体育祭（8月31日）



8月に体育祭という、ずいぶん暑い時期にやったのだと思われるでしょうが、今回の体育祭は県立体育館の中で冷房をかけて行われました。もちろん熱中症予防のためです。毎年体育祭は準備段階から熱中症対策が大きな負担となっていました。県立体育館を使うことでこの課題をある程度クリアする

ことができました。ただし、競技の内容は校庭より狭い体育館フロアに適応できるように設定しました。盛り上がりがどうか心配する声もあったようですが、問題なく行えました。来年度は学校での準備段階から冷房のある部屋でできないか検討するそうです。皆さんも涼しい水高体育祭を観戦に来られませんか。

浜田公設市場競り見学と企業・大学見学ツアー (9月12日・13日)

食品流通科1年生は9月12日6限終了後、浜田公設市場でJFしまね職員による講義を受けた後、下府町にある国民宿舎千畳苑へ移動して1泊し、翌早朝から競り見学に出かけました。浜田の水産物流通について学ぶこと、及び宿泊と集団行動によりクラス内のふれあいを深め、協調性を高めることを目的として実施されたものです。



【1年生の競り見学】



【バスツアー：出雲村田製作所】

1年生の時に競り見学を経験した食品流通科2年生は、1泊2日で県内企業と大学見学のバスツアーに

出かけます。日程は12日が学校→島根県立大学浜田キャンパス→若女食品→出雲村田製作所→松江フォーゲルパーク→ホテル、13日がホテル→山陰合同銀行本店→島根大学→アクアス→学校、となっています。

県内企業・大学を見学することで知見を広げ、自らの進路について考える。また、集団行動をとることで協調性を高める。と目的にはありますが生徒にとってはミニ修学旅行のようで、楽しい思い出となったことでしょう。

水高祭(10月19日・20日)

1日目はスマート沿岸漁業をテーマとした生徒発表、クラス・部活動紹介、生徒会企画が午前に行われ、午後より有志催し、各科・文化部展示、古本市が行われました。クラス紹介では爆笑が起こるクラスもあり、とても楽しいメニューでした。

2日目は実習製品販売、魚市、マグロ販売、タッチプール、PTA食堂、お茶席、ミニ水族館などが行われました。例年どおり多くの来場者で賑わいましたが、すぐに売り切れてしまうものもあり、欲しいものが買えなかった方も少なくありません。学校としては十分な量を準備したいのですが、限度があるというのが現実です。「売り切れの際はご容赦ください。」とアナウンスするしかありませんでした。

令和7年度は10月25日・26日に開催予定です。卒業生の皆さんぜひお越し下さい。



【実習製品販売】

Sui Sui トーク 2024(10月29日)

1年生と地域の大人が1対1で「お題」について対話し、約2分間で相手を替えて同様の対話を繰り返

すという、フォークダンスの対話版を行いました。コミュニケーション能力の育成や地域に対する愛着心を育むとともに、将来を見通す力を育成する。また、学校教育を地域に開くことを目的としています。

この事業も毎年行っており、参加する浜田市民を募っています。学校から SuiSui トークへの参加依頼が届いたときは、ぜひ引き受けていただきたいと思います。



【Sui Sui トーク 2024】

マリンロボットコンテスト (12月8日)

神奈川県横須賀市の「国立研究開発法人海洋研究開発機構」で開催された第6回全国水産・海洋高等学校マリンロボットコンテストへ、海洋技術科3年生の課題研究「水中ロボット班」、坂倉 怜央君(山口県出身、掛谷 幸生君(岡山県出身)、吉田 拓潤君(浜田市出身)の3名が出場しました。結果はプレゼン部門第2位、実機を使用したレース部門第2位、総合第2位という成績でした。機体の塩ビパイプは地元の水道工事業者から提供を受け、アルミフレームの提供と溶接はプラスチック製造工場にお願いしました。地域を挙げて作製した自信作でしたが、狙っていた優勝に届かず生徒達は残念そうでした。



【表彰式後の記念撮影】

しまねふるさとフェア 2025 in 広島 (令和7年1月18日・19日)

ひろしまゲートパークプラザで開催されたしまねふるさとフェアに食品流通科3年生が参加しました。



【浜田水産高校ブース】

実習製品を販売する浜田水産高校ブースにはたくさんのお客様に来ていただくことができました。もちろん広島在住の卒業生の方も多く、久しぶりに元担任との再会もあったりしました。来年度も参加する予定となっています。正式に決まりましたら浜水会広島支部事務局へお知らせいたしますので、広島在住の会員はお問い合わせ下さい。

実習製品校外販売 (令和7年2月27日)

食品流通科による実習製品販売が浜田市役所2Fロビーで行われました。



【市役所での実習製品販売】

12時から13時の1時間でしたが、市役所の職員を中心に多くのお客さんが詰めかけ、あっという間に売り切れてしまいました。海洋技術科課題研究「養殖班」が収穫したワカメの無料配布も大好評でした。次年度も実施を予定しています。浜田市の公報に案内が載りますので、浜田市在住の方はチェックして下さい。

会員からの投稿

『仰げば尊し - 木村先生の思い出』

中川平介（10期水産製造科卒）

今では卒業式で歌われなくなった「仰げば尊し」に纏わる話です。定年退職後、マレーシアのボルネオで日本語を教えていた時、中級クラスの教科書に日本の卒業式の歌「今日の日は、さようなら」がありました。クラスの生徒はこの歌を既に知っていました。私の時代は「仰げば尊し」であったことを話し、ダウンロードして「仰げば尊し」を生徒たちに紹介しました。日本語に堪能な生徒とはいえ歌詞は理解不能で「これは侍の言葉ですか」との質問がありました。この歌は書き言葉で、先生への感謝と思い出が込めた内容であると説明しました。ふと、印象深い我が師が思い浮かびました。

高校時代、国語担当の木村利宣先生は図書室に机を構えておられ、図書委員であった私は、先生と毎日顔をあわせていました。私が本を借り出す度に、先生から「今度は何を読むのかね」と問われていました。

高校入学後、怠惰な勉強態度の私に、先生から成績低下を心配され、再三注意を受けました。化学担当の上田精一先生からも同様の忠告をいただいていたが、全く気にも留めず気楽に過ごしていました。二年生の中頃、卒業後の進路に目途がつかず、大学受験を思い立ち、唐突に受験勉強を開始。漢文は好きな科目でしたが難解な漢詩に困り、木村先生に質問しました。先生は本を一瞥して「何を血迷ったか」という顔つきで、「君、基礎のない者に、それは無理だ」との一言ではねつけられました。自分の不真面目を自覚していたため「仰ること、ご尤も」と心で呟き、そのまますごすごと引き上げました。

幸いにも大学合格が叶い、学校を訪ねると、先生が私につかつかと歩み寄られ、「あの時、君が勉強を始めていたとは思わんで、あんなことを言うて、本当に済まなんだ」と私に深々と頭を下げて謝られました。

あのことを先生が覚えておいでで、私に謝るなど、驚きでした。むしろ、再三にわたって忠告をいただいた先生には、申し訳ない思いでした。その後に母校を訪れた日は、先生が教頭で定年を迎えられた送別会直後でした。私の顔を見るなり、「全部終わったよ」と感慨深げに言われたのが印象的です。

帰省の度、長浜にある曹洞宗のお寺の先生宅を訪問していました。茨城県ご出身の奥様は、茨城訛で始終陽気に歓待していただきました。先生のご先祖の津和野のこと、自己に厳格なお父上のことなど、とつとつと話されました。年賀状で近況報告をしていましたが、先生からの賀状に印象深いものが二通ありました。一通は上下が逆さまで、裏側に小さい字で「逆さまになったが、気持ちに変わらないから」と付記されており、「成程、こういう手もあったか」と感心しました。もう一通は、私が広島大学赴任後にいただいたもので、「研究者は往々にして家庭を顧みないから、そのようなことがないように」との忠告でしたが、当時は賀状の意味を解せませんでした。先生の忠告が理解できたのは退職後で、仕事に熱中し、家庭に負担をかけ続けていたことに気がきました。これは先生が水高在職中、家族を省みなかった、ある著名な研究者を目の当たりにされたためではないかと思います。

突然、先生の訃報が届き、奥様に電話しましたが、奥様の声は嗚咽で聞き取れず、お悔やみの言葉も伝えられないまま電話が切られました。後に、お悔やみに訪れた際、奥様から先生のネクタイを貰ってくれるように言われました。先生が使っておられた数本のネクタイは、どれも当時の私には地味でしたが、加齢と共に次第に使えるようになり、やがて自分のものと区別がつかなくなりました。そして、それらのネクタイを着用する機会はなくなりました。

事務局から

はじめに、浜水会が使用する OA 機器の不調（寿命）により「翠香」を作成できず、発行が1月ほど遅れてしまいました。会員の皆様におわび申し上げます。しかし、印刷作業前に広島支部会員の中川平介様から届いた投稿を掲載できたのは、「ケガの功名」だったのではないかと自らを慰めております。会員の皆様からの投稿は大歓迎です。どんどんお寄せ下さい。

広島支部と関西浜水会では若い会員の総会・懇親会への参加が課題となっているようです。もちろん本部も例外ではなく、若い会員の浜水会事業への参加者増を手探りで進めているところです。

その一つとして令和6年度の広島支部と関西浜水会総会・懇親会へは若い事務局員に出席してもらいました。今後は彼らに同年代の会員を誘ってもらい、一緒に出席してもらえたらいいと思っています。

今後も浜水会の活動が順調に継続できるよう努力してまいりますので、ご協力をお願いします。

